

泉州看護専門学校

○2023年度「自己点検・自己評価」

カテゴリー	現状と課題・解決方法	学校関係者委員よりのご意見
<p>教育理念・教育目的・教育目標</p>	<p>理念・目的・育人人材像は本校の絶対的教育方針に繋がるものであり、入学案内・ホームページ、学生便覧に分かりやすい表現で載せている。</p> <p>本校の『めざす看護師像』も学生便覧の中に記しており、その内容は、看護の専門職者として求められる専門知識・技術・技能を身につける前提として、感性豊かで人権思想に裏付けられた科学的な人間観・健康観と集団の中での人材育成や仲間意識を重視している。さらに、設置主体である法人の医療観（綱領）に基づき、対象を生活と労働の場で歴史的に捉えることを核としている。科学的な物の見方・考え方を育て、生命に対する尊厳を深めるために、「哲学」「生物学」「物理学」とさらに「憲法学」を科目立てしている。</p> <p>本校は、これまで全学合宿・学院祭・創作曲発表会といった行事を学生主体で実行委員会形式で行うことにより、自主性・民主性・集団性を高める取り組みとして、教育の柱として取り組んできた。しかし、コロナ禍以降、全学合宿が実施できず、2023年度も「泉州夏祭り」を開催した。実行委員会を中心として全学生がグループに分かれ、5月から実行委員会・係会議をすすめていった。1日間で行う取り組みで、学生たちは「夜店」の様な出し物を各グループで話し合い実施に向けて準備をすすめた。感染対策を行いながら、安全に他者とも交流でき、ゲームなどで楽しんだ。この時期（7月）に行事を行うことの大事さを実感する内容であった。</p> <p>学院祭は昨年同様、縮小した形で実施することが出来た。実行委員会を中心に係活動を縦割りで行った。行事をすすめる中で学生の成長が見られ、実施できて良かった。学院祭のテーマを「『生命』～災害看護について学ぶ」とし、MMATの医師より「民医連の災害支援」および「災害医療についての概要」などについて講演していただき、災害医療を中心として民医連の医療活動について歴史から学ぶ機会となった。</p> <p>創作曲発表会は、2023年度も縮小した形とはなったが、実施できた。音楽の講義は「歌を通して平和について考え、互いに信頼し合うことを学ぶ」こと、そして「グループワークの中で協力、共同して創作する喜びを共有する」ことを科目目標としており、それを発表する創作曲発表会は”勉強は厳しくとも学校生活は楽しい”をモットーにして、歌うことを通して心を開放し、学年・クラスを超えて交流する場である。3学年各クラスが1回生の音楽の講義で創った歌を全体の中で発表する。1・2年生が実行委員となり、企画・運営を行う中で、現在と次年度の中心学年がリーダーとしての資質を養う機会となっている。</p> <p>実行委員または各係といった役割をもって、一つの行事を作り上げる為には、係会議や実行委員会といった3学年での討議や準備をすすめる中で、自分の意見を相手に伝えること、また、相手の意見や思いを受け止めること、さらには意見が相違する中で、折り合いをつけながら意見をまとめていくということを繰り返し行うことで、自主性・民主性・集団性を高める機会になっていると考える。</p> <p>今後も3学年で取り組む行事が実施できるよう、最大限の努力と工夫を行っていきたい。</p> <p>例年家族懇談会を行っていたが参加する保護者が限られており、参加人数も年々少なくなっていることもあり、今年度は各学年とも個人懇談会を行った。ほぼ全員の学生保護者と面談することが出来、学生と家族の様子がわかり、その後も何かあれば保護者から連絡をもらうこともあり、また学校からも連絡を密に取りやすくなった。</p>	<p>○『めざす看護師像』を教員と学生とでもっと共有できるように関わること大切 ○行事（学生の取り組み）だけでなく、講義や実習で大切にしていることの評価も欲しい ○コロナ以前は「びわこ学園」の見学などフィールドワークも積極的に行っていた。（コロナ感染拡大が落ち着いてきたら）現場を大切にする授業を復活させたい ○行事の会議も型にはまったものでなく、学生たちのやりたいことを掘り下げて追及させる援助に務めて欲しい</p>

<p>教育課程経営</p>	<p>本校は、民医連の綱領、法人の医療・看護の理念がもとになり、「無差別平等の医療」「患者の立場に立つ看護」が教育実践の軸になっている。</p> <p>教育理念・教育目的・教育目標に沿って教育課程編成が行われているが、社会状況や社会のニーズは年々変化している。そのため、毎年、前期総括・後期総括を行い、その都度改善に努め、年度末総括では、来年度のカリキュラム内容に向けて検討をしている。その中で、外部講師の変更や講師団会議による意見、学生による授業評価などを参考にカリキュラム内容の変更も行っている。新カリキュラムも2年目となった。地域（民医連）に根ざした教育を学校独自のカリキュラムとして構成し、「地域」や「在宅」に焦点を当て、今年度も1回生が地域・在宅看護論の講義の一環として、共同組織の友の会班会等へ参加させていただいた。共同組織の方々と交流を通して、地域で生活する人々のことや、そこにある医療施設の存在意義なども楽しく学ぶことが出来た取り組みとなった。若い学生が来ることを楽しみにしてくれている高齢者もあり、暖かく学生を受け入れていただき、学ぶ機会ともなっている。この取り組みを、今後もさらに発展させていきたい。</p> <p>拡大臨床指導者会議を今年度も開催することが出来、この間の実習状況を臨床と教員で交流する場で、臨床実習の重要性を再確認する機会となった。今年度初の取り組みとして、参加者（指導者および教員）をグループに分け、グループごとに討論しあう形をとった。日常悩んだり困っていること、学生の現状や関わり方、コロナ禍が学生に及ぼした影響なども交流し合えることが出来た。臨床実習指導者講習会を2023年度も開催できた。講習会の中で、参加者と教員が学生指導について話し合ったり学びあう場となったが、今回の受講者からはグループワーク課題等について「もっと具体的な指示が欲しい」などの意見も受けた。教育はマニュアルでは出来ないものであるが、「形」を求める傾向にあることも実感する。講習会の内容についてさらに検討を加える必要があると考える。</p>	
<p>教授・学習・評価課程</p>	<p>学生への教育活動について、入学前にオリエンテーションを行っている。入学前オリエンテーションでは、学則を含めた学校生活について、学生本人だけでなく保護者にも伝え学業支援をお願いしている。その後は、各学年で個人懇談を行い、必要時は家族と連携し学生への支援体制をとっている。今後も保護者から信頼されるような学校作りが必要である。</p> <p>成績については、毎年4月に前年度の単位取得状況である成績表を学生および保護者に渡している。また、個人懇談でも具体的に学習状況を共有することが出来た。さらに、国家試験に向けての対策や現状なども情報共有し保護者と学校で共に学生を支える基盤づくりに努めている。</p> <p>今年度は出席日数不足で試験受講資格を無くした学生が複数おり、さらに終講時試験も不合格となった学生がとて多い結果となり、留年措置となった学生が3学年で合計7名となった。再試験に向けては担任が入ったの学習会も行っているが、日常的な学習の強化をクラス集団としても個人学習としても取り組むなど、低学年からの学習支援が重要である。</p> <p>今年度もコロナの影響が多少見られたが、全領域で臨地実習を実施することができた。ワクチンの接種状況により実習地の変更を余儀なくされたケースもあり、学生により学びの差が多少でも生じることとなった。</p> <p>今年度も看護師国家試験対策は、臨地実習が少なくなったことも影響して、学生のイメージを深めるような学習（補講等）を行った。3年間コロナ禍での学生生活であり、学習の積み重ねの不十分さがあり、様々な国家試験対策を講じた。2023年度卒業生の卒業前アンケートで、入学してよかったこととして「国家試験対策」を挙げた学生も多かった。学生それぞれ努力を重ねたが、2名が不合格となったことは残念であり、今後も全員合格を目指して支援していきたい。</p>	<p>○1回生の初めになぜ看護師を目指すのかの問いかけが重要。アイデンティティの確立、民医連の医療とは…など看護師として基礎になる部分が構築できるような関わりを。 ○外部講師も含め授業評価の共有を。学生・講師がともに評価しあうことで講義を充実させていけるのではないかな。</p>

<p>経営・管理課程</p>	<p>本校の管理運営にあたっては、組織図のもと、管理委員会、学校運営委員会を設置し、それぞれの任務および審議決定事項も規定されている。</p> <p>管理委員会は1か月に1～2回、学校運営委員会は2か月に1回開催している。教務会議は1か月に2回定例会議を実施、さらに臨時の管理会議や教務会議を行い、その都度の課題や学生対応に努めている。各学年会議には担任、副担任に教務主任が入り、指導・相談にあっている。また、臨地実習担当として実習調整者を配置し、実習にかかる全般を担っている。</p> <p>講師団会議は例年年度末に行っていたが、コロナ禍以降3月頃に実施することの困難さもあり、今年度も2023年3月に行うはずの会議を7月に実施した。学生の特徴や課題を共有し、教育する側の悩みや課題も話し合う機会となった。年度末には2度目の講師団会議を実施した。ここでは、講師と教員が率直に話し合える機会を持ちたいと考え、学校報告の後はテーブルごとで意見交換し合う『分散会』形式とした。参加者全員がそれぞれの思いを語ることが出来たのではないかと考える。</p> <p>「どんな看護師を育てるか」「自分たちのめざす医療や看護」について教員自身学習をすすめていき、学生に「看護師を目指すものとして、このことはしっかりと知っておいてほしい」ことなどを伝えていくことが重要と考え、教員の学習会を行った。「民医連の看護学校での教育について」「泉州だからこそ大事にしていること、大事にしたいこと」などを教員が討議するにあたり、助言者（講師）も招いて行った。</p> <p>入学後のガイダンスで奨学金制度について説明を行い、日本学生支援機構の申し込み、事務手続きの相談・援助を行っている。関連病院の奨学金希望者の相談を受けたり、経済的に困難な学生からの相談も受けている。</p> <p>教育効果を高めるための機材については、WEB環境整備に努めた。ナースングチャンネルの継続契約、DVD購入、パソコン本体および周辺機器の整備、その他必要とされる教材の工夫を行ってきた。</p> <p>コロナ禍における感染対策では、前年同様体調管理と手洗いの励行、マスクの着用、特に昼食時の黙食指導を繰り返し実施した。学生の努力もありコロナ禍以降、学内でクラスターは一度も発生していない。</p>	
<p>入学</p>	<p>進路相談会は、10会場（高校含む）に参加できた。 学校独自での高校訪問は昨年に続き実施した。直接高校の進路指導の先生と話すことが出来、本校の教育についてや入試情報を伝えることが出来た。訪問や進路相談に参加した学校から高校生がオープンキャンパスに参加していると思われ、今後も高校の先生とのつながりを大事にしていきたい。病院の看護学生担当者や共同組織の方とともに高校訪問等を行うことも今後の検討課題である。</p> <p>大阪府下の全高校に学校案内パンフレットおよび募集要項の郵送は例年同様実施できた。</p> <p>学校の広報活動としては、ホームページへの新着ニュースアップに努めた。また、大阪府看護学校協議会が開設しているYouTubeチャンネルへの学校紹介動画の配信は2023年度をもって終了となったため、今後は学校独自で動画配信等行っていく必要がある。</p> <p>オープンキャンパスは、1回の人数を30人定員とし午前・午後の2部制で3日間で実施した。全体の参加者数は昨年より大幅に減少した（122名→79名）。オープンキャンパス以外での希望者の学校見学は随時受け入れたがその数も少なくなっているように思う。</p> <p>一昨年に受験者数が前年度より40名減少したことで入試日程を前倒し、昨年度は受験者数が前年よりは若干増えたが、今年度は大幅に減少した。11月、12月の入試に加え1月2月にも追加で入試を実施したが、2024年度の入学者数は定員を大きく下回る結果となった。看護系大学が増え、大学への進学者が増えていることの影響も大きい。2023年度卒業生の卒業前アンケートから、本校を選んだ理由の第1は「オープンキャンパスがよかったから」であり、本校が第一希望であったという学生も多かった。まずはオープンキャンパスの参加者を増やし、本校の教育の魅力・特徴を伝えること、そして本校を希望してくれる受験生を増やすことが喫緊の課題である。</p>	<p>○募集活動については、学生たちに身近なSNSの活用や実習先や患者会などつながりを生かし受験生の減少に対して様々な方法で確保の取り組みを進めること ○社会人入試も検討してはどうか</p>

卒業・就職・進学	<p>設置主体法人をはじめ関連施設との奨学生制度があり、1年次から奨学生となっている学生も多く見られるが、今年度の民医連施設への就職率は7割であった。関連施設外も含め就職率は100%である。</p> <p>2023年度の本県の看護師国家試験合格率は94.6%であった。卒業生37名のうち、病院への就職が34名、1名が助産師学校に進学となった。2名は次年度の国家試験に向けて準備を始めている。今後も学生の主体性を育みながら、教員一同、学生をサポートしていく。</p>	
地域社会/国際交流	<p>今年度も11月の学院祭では、コロナの影響で外来者に参加いただくことが出来なかった。地域自治会主催の行事などにも参加できなかった。学生独自の取り組みとして、学校周辺の清掃活動を実施した。</p> <p>災害時の対策としては、毎年防災訓練において避難訓練を行っている。2023年度は消防署職員に参加いただき、学生と教職員の避難訓練を実施した。しかし昨今、地震が頻発している状況下としては、津波対策としての避難訓練を行う必要がある。</p> <p>国際看護としては、今年も映画シッコを視聴し、学生は各国の医療状況や医療保険制度について興味関心を寄せていた。日本の皆保険制度の重要性に改めて実感する学生が少なくなかった。</p> <p>また、コロナ感染症だけでなく世界の感染性疾患についても講義で深め、さらに講義や国家試験対策として教科書および国民衛生の動向を用い、日本の医療情勢や公衆衛生の状況、世界の健康や公衆衛生の状況等を、例えば乳幼児死亡率をはじめとする統計をもとに学習を行った。日本のことだけでなく、視野を広げて世界にも目を向ける機会を今後も検討していきたい。</p>	
研究	<p>教員の研究活動として、WEBで企画されたものも含め、セミナーや研修会、看護協会や看護学校協議会の講演会、民医連主催の研修会等、延べ82名が参加することができた。また、6名の教員が研究発表を行った。学校方針としては、「毎年教員全員がどこかで発表をする」ことを目標としており、今後も努力していきたい。</p> <p>大阪府看護協会主催の看護教員養成講習会の講師として、1名参加した。今行われている教員養成講習会の内容を知る機会ともなり、逆に学ぶ機会となった。また、同講習会の実習地として今年度も2名の受講生を受け入れた。</p> <p>また今年度も大阪府看護協会主催の臨床実習指導者講習会に指導補助者（プロンプター）として1名参加した。</p> <p>こうした講習会への参加によって、今の教育について学ぶ機会にもなり、また他校の看護教員との交流も深まり、教員自身の資質向上にもつながると考える。</p>	